

NHK番組「JAPAN・デビュー」に対する抗議と訂正を求める文書

去る4月5日に放映されました「JAPAN・デビュー・アジアの一等国」では、台湾での取材で、多くの意見が出たにもかかわらずそれを公平にとりあげていなく、編集の偏向、歪曲がうかがえます。

ことに下記の四つの点の歴史解釈については、間違いであるとして此処に抗議と訂正を要求いたします。

1、人間動物園

これは当時の白人の優越感から生れた言葉ではあるが、パイワン族の正装した写真を「人間動物園」と字幕つきで紹介するのは、不適切である。高士村の人々は今でもこれを村の荣誉としており、英国へ行った村の人々は、非常に優遇されていた様子が、1910年台湾総督府発行の「台湾日日新報」9月29日と30日付けの1面記事に詳しく記載されている。彼等の踊りは後に旧制台北高等学校で毎年の記念祭でも、圧巻のショーとして披露されている。パイワン族に対する人権問題である。

2、日台戦争

戦争という言葉は、この場合不適切である。清国が台湾を日本に割譲して日本領台当初は台湾における反抗は強かったが、それは戦争ではなく「武装抵抗」という表現にするべきである。

3、漢民族

台湾では、戦後大陸から逃げてきた中国人を除いては、自らを漢民族と思うより、台湾人と思っている人間が圧倒的に多い。番組で漢民族と強調することは、DNAも漢民族とは異なる台湾人に対して恣意的な解釈を押し付けられる感を免れない。ここ二十年間、台湾人としてのアイデンティティーが根付いてきて普及している現在、今更なぜ「漢民族」を強調するのか疑問に感じる。

4、中国語

当時台湾の人々が使っていたのは、所謂台湾語と呼ばれている閩南語、それに客家語と、先住民族の各部族の言葉であり、決して中国語ではない。なぜ、()までつけて(中国語)と説明するのか不可解である。

以上の四つの点を特に、NHKに対して抗議し、訂正を求めます。

台湾台北市



柯徳三



2009/6/15